

# 第一章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」「世の中に正直が…」

p.11

## 中心資料

小学校 読み物資料とその利用  
平成三年三月 文部省 「なしの実」

### 【主題名】 正直に生きる

第三学年及び第四学年 1-4

【ねらい】 正直に生きる心で、元気づく生活しようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》「三・四年生の時期の児童は、自分の過った行動について素直に反省できなかったり、ごまかしてしまったりすることがあります。一方で、善悪の正しい判断ができるようになる時期でもあります。過ちは過ちであると認め、それを改めることが自分の成長につながることに気付かせ、自分をこまかさず、正直に生きていこうとする姿勢を身に付けさせることが大切です。」



「今まで、正直に言わなければいけなかったのに言えなかったことはありませんか。」

○心の中でじっくりと考えさせることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをしましょう。

○「ファーブル昆虫記」を書いたアンリ・ファーブルの少年時代のエピソードであることを伝えてから読み聞かせると、資料に興味もてるでしょう。

○教師が「なしの実」を読み聞かせましょう。



「弟に頼まれてなしの実をとったとき、アンリはどのような気持ちだったでしょうか。」

○自分の経験とも重ね合わせながら、いけないことをしてしまったときの気持ちを考えさせましょう。

### 中心発問



「お父さんに問いつめられ、ただうつむくことしかできないアンリは、どのような気持ちだったでしょうか。」

○正直に言うべきか迷っているアンリの気持ちを考えさせましょう。  
《評価》 アンリに共感し、正直に言うまでの様々な気持ちについて考えることができたか。



「お父さんの胸に飛び込んだとき、アンリはどのような気持ちだったでしょうか。」

○父の思いにふれ、正直に話したあとのアンリの気持ちについて考えさせ、ねらいとする道徳的価値に迫っていきましょう。



「正直に本当のことを言ってよかったと思ったことありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」

○「心しなやかに」 p.99 「正直な心で自分をかがやかせよう」を活用して、「正直になれたと思ったときのことを書き添えておこう。」に記入させてから、発表させてみましょう。

○「心しなやかに」 p.11 「世の中に正直が勝たないで…」を紹介し、正直に明るい心で生活することの大切さを伝え、授業のまとめにしましょう。

○教師自身が、正直に言ってよかったと思った体験を子供たちに語るのもよいでしょう。

## 板書例

【資料の特徴】 中心資料の「なしの実」は、アンリ・ファーブルの子供時代のエピソードを描いた読み物です。弟と二人でこたりの家のなしの実を取って食べてしまったアンリは、父に諭され、自分の行為を深く反省します。「世の中に正直が勝たないで、外に勝つものがあるか。」は、夏目漱石の『坊っちゃん』の中の言葉です。正直さを自分の中心におこうという意欲を与えてくれる言葉です。

### なしの実

大人になった  
アンリ・ファーブルの顔

弟にたのまれてなしの実をとったとき、アンリはどのような気持ちだったでしょうか。

- おなかをすかせた弟のためだ。
- とってはいけないのに取ってしまった。
- 弟に言われてついとってしまったけれどやめておけばよかった。
- だれかに見られていたらどうしよう。

お父さんに問いつめられ、ただうつむくことしかできないアンリは、どのような気持ちだったでしょうか。

アンリがうつむいている挿絵

お父さんのおねにとびこんだとき、アンリはどのような気持ちだったでしょうか。

- やめておけばよかった。
- 弟にせがまれてやったことを言おうかな。でも、話すのがかわいそうだ。
- うそはつけない。おこられるかもしれないけれど、正直に言おう。
- ごめんなさい。もうぜったいにしない。
- 本当のことが言えてすっきりした。
- ゆるしてくれてありがとう。

アンリが胸に飛び込んでいった挿絵

正直に本当のことを言ってよかったと思ったことありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。

- 友だちにうそをついてしまいいやな気持ちだったけれど、本当のことを言ったらすっきりした。
- 友だちのものをこわしてしまいい、正直に言ったらゆるしてくれた。うれしかった。

《評価》 正直に明るい心で、元気づく生活しようとする気持ちをもつことができたか。

終末

展開

導入